

7日 金曜

テモテⅡ



4:1 神の御前で、また、生きている人と死んだ人をさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現れとその御国を思いながら、私は厳かに命じます。

4:2 みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。

4:3 というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、

4:4 真理から耳を背け、作り話にそれて行くような時代になるからです。

4:5 けれども、あなたはどんな場合にも慎んで、苦難に耐え、伝道者の働きをなし、自分の務めを十分に果たしなさい。

4:6 私はすでに注ぎのささげ物となっています。私が世を去る時が来ました。

4:7 私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。

4:8 あとは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。その日には、正しいさばき主である主が、それを私に授けてくださいます。私だけでなく、主の現れを慕い求めている人には、だれにでも授けてくださるのです。

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても…」とあります。伝道など今は無理とか、教会に誘っても来ないと思う…などと言うのを聞くことが多いですが、それでも聖書に書いてあることを話題にすることはできるでしょう。

それも無理なら行動によって「みことばを宣べ伝える」ことはできます。つまりみことばを行うのです。実はそれが一番効果のある伝え方です。またイ

エス様の方法です。

パウロはテモテに「自分の好みに従って…教師を寄せ集め」て行くような時代になると言っています。いつの時代にもそのような異端は出現しますが、もしも私たちが聖書の教えを自分たちの都合で、取捨選択したり無視したり、または別の考えややり方ををするなら、同じことです。

パウロのように投獄されてでも、主の教えを曲げずにそのために生きた人によって、聖書は伝えられてきました。私たちもその担い手となることが主から求められているのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

